

研修名 保育士研修C「ひろがり」（地域子育て支援研修）

平成28年7月21日（木）13：30～16：00

講演 「子どもの好きな場所・人・事」

講師 大阪教育大学 小崎 恭弘 氏

1 講演要旨

1) 保育とは

「人権」を基盤に捉え「養護」と「教育」が一体となった専門的な活動である。

2) 子どもの人権を守るとは

子どもの最善の利益を確保し、保育所・保育者・保育活動が子どもにとって一番いいものであり、これらを達成できている状態のことである。

3) 子育てとは

子どもは求める生き物で、欲求を満たしていくことは大切である。しかし、すべてを無尽蔵に与えることが子育てではなく、「すくなくすぎない」「あたえすぎない」「いい加減」が大事である。子どもには必ず育つ力があり、信じる能力・ちょうどよいコミュニケーションの中で人は育つのである。

4) 保育者はコミュニケーションのプロとは

保育はコミュニケーション能力をうまく使う特殊な職業である。

子ども、保護者、職員という3つの人間関係の中心に保育者がいるという自覚を持つことが大切である。

5) コミュニケーションとは

社会生活を営む人間が互いに意志や感情、思考を伝達し合い言語・文字・身振りなどを媒介として行われること。

動物同士の間で行われる、身振りや音声などによる情報の伝達法。

もう一つの意味として、コミュニケーションが取れない不全になった時にとる対応能力でどうにかして改善しようとする力である。

6) 目指すコミュニケーションとは

自分の思いが相手に正確につたわり、そのメッセージにより相手が自分の望む方向に行動を起こし、それが連続、継続している状態となるという。この一連の流れが循環している状態が「よいコミュニケーション」であり、どの流れが一つも滞ることの無いようにすることが大切である。

7) 保育におけるコミュニケーションとは

人がともに生きていく基本を学ぶ場が保育である。現在の社会変化により、その基本を学ぶことも難しくなっている。だからこそもう一度、子どもの育ちの中で保育者が愛情と思いをきちんと持ってかかわることが保育におけるコミュニケーションである。

2 感想

今回の講演で、日頃の保育が子どもたちにとっての一番いい場所・人・事に保育所・保育者や保育所での活動が良いものとなっているだろうかと振り返る機会でした。

子どもたちの人生の礎となる、人と人がともに生きていく基本を学ぶ場が、保育となる大切さを改めて学びました。また、コミュニケーションはあくまでも気持ちをうまく伝える方法であり、気持ちを伝えたいと思うベースは、生活の中で保育者も愛情を持ってかかわることが大事であると話が印象に残りました。

コミュニケーションで重要なイメージをどのように誰に何を伝えたいかが、しっかり伝えられているかということの振り返りを、日々の保育の中で大切にしながら、一人一人の子どもにとって「好きな場所・人・事」となる保育者で在れるよう資質向上に努めたいと思いました。

(記録 御牧保育所 吉田敦子)

